

- For more records, click the Records link at page end.
- To change the format of selected records, select format and click Display Select d.
- To print/save clean copies of selected records from browser click Print/Save Select d.
- To have records sent as hardcopy or via email, click Send Results.

✓ Select All	Print/Save Selected	Send Results	Format
✗ Clear Selections			Display Selected Free

1. ☐ 7/5/1 DIALOG(R)File 352:Derwent WPI (c) 2003 Thomson Derwent. All rts. reserv.

014256232

WPI Acc No: 2002-076930/200211

XRAM Acc No: C02-023167

Composition for dyeing hair comprises oxidation base of
5-methyl- pyrazolo(1,5a)pyrimidine-3,7-diamine, and does not contain
N-(2-hydroxybenzene)carbamate or carbamide coupler

Patent Assignee: L'OREAL SA (OREA); KRAVCHENKO S (KRAV-I); LAGRANGE A
(LAGR-I)

Inventor: KRAVCHENKO S; LAGRANGE A

Number of Countries: 028 Number of Patents: 004

Patent Family:

Patent No	Kind	Date	Applicat No	Kind	Date	Week
EP 1155680	A1	20011121	EP 2001401148	A	20010503	200211 B
FR 2809001	A1	20011123	FR 20007120	A	20000519	200211
US 20020032934	A1	20020321	US 2001860585	A	20010521	200224
JP 2002047154	A	20020212	JP 2001151296	A	20010521	200227

Priority Applications (No Type Date): FR 20007120 A 20000519

Patent Details:

Patent No	Kind	Lan	Pg	Main IPC	Filing Notes
EP 1155680	A1	F	11	A61K-007/13	

Designated States (Regional): AL AT BE CH CY DE DK ES FI FR GB GR IE IT
LI LT LU LV MC MK NL PT RO SE SI TR

FR 2809001	A1	A61K-007/13
US 20020032934	A1	A61K-007/13
JP 2002047154	A	8 A61K-007/13

Abstract (Basic): EP 1155680 A1

NOVELTY - A composition for the oxidative dyeing of keratinic
fibers comprises, in an appropriate medium, as an oxidation base at
least 5-methyl-pyrazolo(1,5a)pyrimidine-3,7- diamine and or its acid or
base addition salts, and does not contain N-(2-
hydroxybenzene)-carbamate or N-(2-hydroxybenzene)-carbamide as a
coupler.

DETAILED DESCRIPTION - INDEPENDENT CLAIMS are included for:

(1) a method of dyeing hair by applying the claimed composition for
sufficient time to develop the desired coloration by exposure to air or
to an oxidizing agent optionally in the presence of an oxidation
catalyst; and

(2) a multi-compartment kit in which one compartment contains the
claimed composition and another contains an oxidizing composition.

USE - The composition is used for the dyeing of hair

ADVANTAGE - The composition gives strong, especially chromatic and
brilliant colorations, which are not selective and have excellent
resistance to, e.g., light, weather, washing, perming, perspiration and
abrasion.

pp: 11 DwgNo 0/0

Title Terms: COMPOSITION; DYE; HAIR; COMPRISE; OXIDATION; BASE; METHYL;
PYRAZOLO; PYRIMIDINE; CONTAIN; N; HYDROXYBENZENE; CARBAMATE; CARBAMIDE;
COUPLE

Derwent Class: D21; E23

International Patent Class (Main): A61K-007/13

International Patent Class (Additional): D06B-001/00; D06B-023/14;
D06P-003/08

File Segment: GPI

Derwent WPI (Dialog® File 352): (c) 2003 Thomson Derwent. All rights reserved.

✓ Select All		Display Selected	Format
✕ Clear Selections	Print/Save Selected	Send Results	Free

© 2003 The Dialog Corporation

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開2002-47154

(P2002-47154A)

(43) 公開日 平成14年2月12日 (2002.2.12)

(51) Int.Cl. ⁷	識別記号	F I	テマコード* (参考)
A 6 1 K	7/13	A 6 1 K 7/13	3 B 1 5 4
D 0 6 B	1/00	D 0 6 B 1/00	4 C 0 8 3
	23/14	23/14	4 H 0 5 7
D 0 6 P	3/08	D 0 6 P 3/08	

審査請求 有 請求項の数16 O L (全 8 頁)

(21) 出願番号	特願2001-151296 (P2001-151296)	(71) 出願人	391023932 ロレアル L O R E A L フランス国パリ, リュ ロワイヤル 14
(22) 出願日	平成13年5月21日 (2001.5.21)	(72) 発明者	シルヴァン クラヴチェンコ フランス国 92600 アニエール, リュ タントレ 20
(31) 優先権主張番号	0 0 0 7 1 2 0	(72) 発明者	アラン ラグランジ フランス国 77700 クープヴレイ, リュ ドゥ モントリ 5
(32) 優先日	平成12年5月19日 (2000.5.19)	(74) 代理人	100109726 弁理士 園田 吉隆 (外1名)
(33) 優先権主張国	フランス (F R)		

最終頁に続く

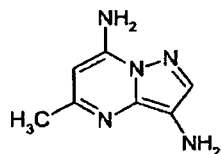
(54) 【発明の名称】 酸化ベースとして少なくとも5-メチルピラゾロ [1, 5- α]ピリミジン-3, 7-ジアミンを含有するケラチン繊維の酸化染色用組成物並びにそれらを使用する染色方法

(57) 【要約】

【課題】 媒体への溶解性が良好で、優れた耐性を有し、比較的非選択的で、強く光沢のある着色を得ることのできる染色用組成物を提供する。

【解決手段】 適切な染色用媒体に、酸化ベースとして、以下の構造：

【化1】

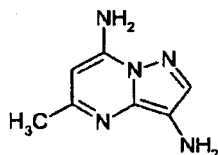


の5-メチルピラゾロ [1, 5- α]ピリミジン-3, 7-ジアミン、並びにその酸又は塩基との付加塩類を少なくとも含有せしめ、またN-(2-ヒドロキシベンゼン)カルバマート型又はN-(2-ヒドロキシベンゼン)ウレア型のカプラーを導入しない。

【特許請求の範囲】

【請求項 1】 適切な染色用媒体中に、酸化ベースとして、以下の構造：

【化 1】



の 5-メチルピラゾロ[1,5- α]ピリミジン-3,7-ジアミン、並びにその酸又は塩基との付加塩類を少なくとも含有せしめてなるケラチン繊維の酸化染色用組成物において、該組成物が N-(2-ヒドロキシベンゼン)カルバマート型又は N-(2-ヒドロキシベンゼン)ウレア型のカップラーを含有しないことを特徴とする組成物。

【請求項 2】 5-メチルピラゾロ[1,5- α]ピリミジン-3,7-ジアミン又はその塩類が、染色用組成物の全重量に対して 0.001～10 重量%であることを特徴とする請求項 1 に記載の組成物。

【請求項 3】 5-メチルピラゾロ[1,5- α]ピリミジン-3,7-ジアミン又はその塩類が、染色用組成物の全重量に対して 0.05～6 重量%であることを特徴とする請求項 2 に記載の組成物。

【請求項 4】 適切な染色用媒体が、水、又は C₁-C₄ アルカノール類、グリセロール、グリコール及びグリコールエーテル類、芳香族アルコール、類似物及びそれらの混合物から選択される少なくとも 1 つの有機溶媒と水との混合物からなることを特徴とする請求項 1 ないし 3 のいずれか 1 項に記載の組成物。

【請求項 5】 3～12 の pH を有することを特徴とする請求項 1 ないし 4 のいずれか 1 項に記載の組成物。

【請求項 6】 パラ-フェニレンジアミン類、ビス(フェニル)アルキレンジアミン類、パラ-アミノフェノール類、オルト-アミノフェノール類及び 5-メチルピラゾロ[1,5- α]ピリミジン-3,7-ジアミン以外の複素環ベース類から選択される少なくとも 1 つの付加的な酸化ベースを含有することを特徴とする請求項 1 ないし 5 のいずれか 1 項に記載の組成物。

【請求項 7】 付加的な酸化ベースが染色用組成物の全重量に対して 0.0005～12 重量%であることを特徴とする請求項 6 に記載の組成物。

【請求項 8】 少なくとも 1 つのカップラー及び/又は少なくとも 1 つの直接染料を含有することを特徴とする請求項 1 ないし 7 のいずれか 1 項に記載の組成物。

【請求項 9】 カップラーが、メタ-フェニレンジアミン類、メタ-アミノフェノール類、メタ-ジフェノール類、モノ-又はポリヒドロキシル化ナフタレン誘導体及び複素環カップラー、及びその酸付加塩類から選択されることを特徴とする請求項 8 に記載の組成物。

【請求項 10】 カップラーが、染色用組成物の全重量

に対して 0.0001～10 重量%であることを特徴とする請求項 8 又は 9 に記載の組成物。

【請求項 11】 酸との付加塩が、塩酸塩、臭化水素酸塩、硫酸塩、酒石酸塩、乳酸塩及び酢酸塩から選択され、塩基との付加塩が水酸化ナトリウム、水酸化カリウム、アンモニア水又はアミン類から得られたものから選択されることを特徴とする請求項 1 ないし 10 のいずれか 1 項に記載の組成物。

【請求項 12】 空気中で、又は酸化剤を使用し、場合によっては酸化触媒の存在下で、所望の発色をさせるのに十分な時間、請求項 1 ないし 11 のいずれか 1 項に記載の染色用組成物の少なくとも 1 つをケラチン繊維に適用することを特徴とするヒトの毛髪等のケラチン繊維の染色方法。

【請求項 13】 単に大気中の酸素と接触させることで発色させることを特徴とする請求項 12 に記載の方法。

【請求項 14】 使用時に染色用組成物に添加されるか、同時に又は逐次別方式で適用される酸化組成物中に存在する酸化剤を使用して酸性、中性又はアルカリ性 pH で発色させることを特徴とする請求項 12 に記載の方法。

【請求項 15】 酸化剤が、過酸化水素、過酸化尿素、臭素酸アルカリ金属塩、過ホウ酸塩及び過硫酸塩等の過酸塩から選択されることを特徴とする請求項 12 又は 14 に記載の染色方法。

【請求項 16】 第 1 の区画部が請求項 1 ないし 11 のいずれか 1 項に記載された染色用組成物を収容し、第 2 の区画部が酸化組成物を収容する多区画染色具又は多区画染色キット。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】 本発明は、酸化ベースとして、少なくとも 5-メチルピラゾロ[1,5- α]ピリミジン-3,7-ジアミンを含有する、ケラチン繊維、特に毛髪等のヒトのケラチン繊維を酸化染色するための組成物であって、N-(2-ヒドロキシベンゼン)カルバマート型又は N-(2-ヒドロキシベンゼン)ウレア型のカップラーを含有しない組成物、及びそれを使用する染色方法に関する。

【0002】

【従来の技術及び発明が解決しようとする課題】 酸化染料先駆物質、特に、一般に酸化ベース(oxidation base)として知られているオルト-又はパラ-フェニレンジアミン類、オルト-又はパラ-アミノフェノール類、及び複素環化合物を含有する染色用組成物でケラチン繊維、特にヒトの毛髪を染色することが知られている。酸化染料先駆物質、すなわち酸化ベースは酸化物質と組み合わせられて、酸化縮合プロセスにより、着色した化合物及び染料を生じうる無色か弱く着色した化合物である。

【0003】 また、これらの酸化ベースをカップラー又

は調色剤と組み合わせることにより、酸化ベースにより得られる色調を変化させることができることも知られており、これらは芳香族のメタ-ジアミン類、メタ-アミノフェノール類、メタ-ジフェノール類及びある種の複素環化合物から特に選択される。

【0004】酸化ベース及びカップラーに使用される様々な分子により幅広い色調を得ることが可能になる。

【0005】これらの酸化染料により得られる、いわゆる「永久的な」着色は、いくつかの要求をさらに満足させるものでなくてはならない。即ち、毒物学的観点で欠点がなく、所望の強さの色調が得られ、外的要因(光、悪天候、洗浄、パーマメントウェーブ処理、発汗又は摩擦)に対して良好な保持力を示すものでなくてはならない。

【0006】また、染料はグレイの毛髪をカバーできるものでなければならず、可能な限り非選択的であること、すなわち、実際には毛髪の先端と根本の間で敏感度(すなわち傷み具合)が異なりうる、同じケラチン繊維に沿って可能な限り色差が小さくなるようにできなければならない。またそれらは処方物において良好な化学的安定性を有すべきである。さらに良好な毒学的プロフィールを有すべきである。

【0007】ケラチン繊維の酸化染色用カップラーとして、4、5及び/又は6位がC₁-C₄アルキル基で置換されていてもよいある種のピラゾロ[1,5-α]ピリミジン誘導体を使用することは、特に独国特許出願第4029324号において既に提案されている。また、ケラチン繊維を酸化染色するための酸化染料先駆物質として、テトラヒドロピラゾロ[1,5-α]ピリミジンファミリーに属するある種のピラゾロ[1,5-α]ピリミジン誘導体を使用することも、独国特許出願第4133957号において提案されている。

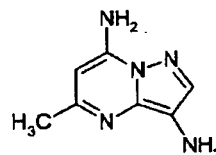
【0008】欧州特許出願公開第0847271号では、ケラチン繊維を酸化染色するための酸化ベースとしてピラゾロ[1,5-α]ピリミジン-3,7-ジアミン等のある種のピラゾロ[1,5-α]ピリミジン誘導体を使用することが推奨されている。これらの誘導体は、耐性及び強度のある方法でケラチン繊維を染色するための良好な能力を有しており、さらに良好な毒学的プロフィールも有している。しかしながら、ピラゾロ[1,5-α]ピリミジン誘導体は、一般的に染色用支持体への溶解度に関する問題を有しており、処方物へ導入する量、及び所望の強度を有する着色を得ることがかなり制限される。

【0009】

【課題を解決するための手段及び発明の実施の形態】本出願人は、全く驚くべきことにまた予期しないことに、上述したピラゾロ[1,5-α]ピリミジン類よりもかなり大きな溶解度を有する特定のピラゾロ[1,5-α]ピリミジンを酸化ベースとして使用することにより、ケラチン繊維が受けるであろう種々の攻撃要因に対して優れた耐

性を有し、比較的非選択的で、強度、特に色度があり、光沢のある着色を得ることができることを見出した。かかる酸化ベースは、以下の構造:

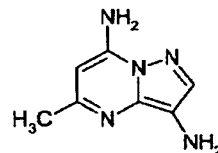
【化2】



10 を有する5-メチルピラゾロ[1,5-α]ピリミジン-3,7-ジアミン、並びにその酸又は塩基との付加塩類である。これらの発見が本発明の基礎を形成する。

【0010】よって、本発明の第1の主題は、適切な染色用媒体に、酸化ベースとして、以下の構造:

【化3】



20 の5-メチルピラゾロ[1,5-α]ピリミジン-3,7-ジアミン、並びにその酸又は塩基との付加塩類の少なくとも1種を含有してなるケラチン繊維、特に毛髪等のヒトのケラチン繊維の酸化染色用組成物であって、N-(2-ヒドロキシベンゼン)カルバマート型又はN-(2-ヒドロキシベンゼン)ウレア型のカップラーを含有しない組成物にある。

【0011】上述したように、本発明の酸化染色用組成物で得られた着色は強く、特に光沢や色度がある。それらにより、青又は黄がないか、ほとんど含有しない赤色の色調を得ることができる。さらに、種々の外的要因(光、悪天候、洗浄、パーマメントウェーブ処理、発汗又は擦過)の作用に対して優れた耐性を有する。

【0012】また本発明の主題は、この染色用組成物を使用するケラチン繊維の酸化染色方法にある。

【0013】5-メチルピラゾロ[1,5-α]ピリミジン-3,7-ジアミンは、組成物の全重量に対して好ましくは約0.001~10重量%、さらに好ましくはこの重量に対して0.05~6重量%である。

40 【0014】上述した染料に加えて、本発明の染色用組成物は酸化染色で従来より使用されている酸化ベース類から選択することができる少なくとも1つの付加的な酸化ベースをさらに含有し、このようなものとしては、特にパラ-フェニレンジアミン類、ビス(フェニル)アルキレンジアミン類、パラ-アミノフェノール類、オルト-アミノフェノール類及び本発明で使用される5-メチルピラゾロ[1,5-α]ピリミジン-3,7-ジアミン以外の複素環ベース類を挙げることができる。

50 【0015】パラ-フェニレンジアミン類としては、例えば、パラ-フェニレンジアミン、パラ-トルイレンジア

ミン、2,6-ジメチル-パラ-フェニレンジアミン、2-β-ヒドロキシエチル-パラ-フェニレンジアミン、2-n-プロピル-パラ-フェニレンジアミン、2-イソプロピル-パラ-フェニレンジアミン、N-(β-ヒドロキシプロピル)-パラ-フェニレンジアミン、N,N-ビス(β-ヒドロキシエチル)-パラ-フェニレンジアミン、4-アミノ-N-(β-メトキシエチル)アニリン、及び仏国特許出願第2630438号に記載されているパラ-フェニレンジアミン類、及びそれらの付加塩類を特に挙げることができる。

【0016】ビス(フェニル)アルキレンジアミン類としては、例えば、N,N'-ビス(β-ヒドロキシエチル)-N,N'-ビス(4'-アミノフェニル)-1,3-ジアミノプロパノール、N,N'-ビス(β-ヒドロキシエチル)-N,N'-ビス(4'-アミノフェニル)エチレンジアミン、N,N'-ビス(4-アミノフェニル)テトラメチレンジアミン、N,N'-ビス(β-ヒドロキシエチル)-N,N'-ビス(4-アミノフェニル)テトラメチレンジアミン、N,N'-ビス(4-メチルアミノフェニル)テトラメチレンジアミン及びN,N'-ビス(エチル)-N,N'-ビス(4'-アミノ-3'-メチルフェニル)エチレンジアミン及びそれらの付加塩類を特に挙げることができる。

【0017】パラ-アミノフェノール類としては、例えば、パラ-アミノフェノール、4-アミノ-3-メチルフェノール、4-アミノ-3-フルオロフェノール、4-アミノ-3-ヒドロキシメチルフェノール、4-アミノ-2-メチルフェノール、4-アミノ-2-ヒドロキシメチルフェノール、4-アミノ-2-メトキシメチルフェノール、4-アミノ-2-アミノメチルフェノール及び4-アミノ-2-(β-ヒドロキシエチルアミノメチル)フェノール及びそれらの付加塩類を特に挙げることができる。

【0018】オルト-アミノフェノール類としては、例えば、2-アミノフェノール、2-アミノ-5-メチルフェノール、2-アミノ-6-メチルフェノール及び5-アセトアミド-2-アミノフェノール、及びそれらの付加塩類を特に挙げることができる。

【0019】複素環ベース類としては、例えば、4,5-ジアミノピラゾール等の本発明で使用される式(I)のピラゾロ[1,5-α]ピリジン誘導体以外のピラゾール誘導体、ピリジン誘導体、ピリジン誘導体、及びそれらの付加塩類を挙げることができる。

【0020】付加的な酸化ベースが存在する場合、それらは染色用組成物の全重量に対して、好ましくは約0.0005~12重量%、さらに好ましくはこの重量に対して0.005~6重量%である。

【0021】本発明の酸化染色用組成物は、特に色調を変化させ、又は光沢に富ませるために、少なくとも1種のカップラー及び/又は少なくとも1種の直接染料をさらに含有してよい。

【0022】本発明の酸化染色用組成物に使用可能なカ

ップラーは、酸化染色において従来から使用されているものから選択され、特にメタ-フェニレンジアミン類、メタ-アミノフェノール類、メタ-ジフェノール類、モノ-又はポリヒドロキシル化ナフタレン誘導体及び複素環カップラー、例えばインドール又はピリジン誘導体、及びその酸付加塩類を挙げることができる。

【0023】これらのカップラーは、特に2-メチル-5-アミノフェノール、5-N-(β-ヒドロキシエチル)アミノ-2-メチルフェノール、6-クロロ-2-メチル-5-アミノフェノール、3-アミノフェノール、1,3-ジヒドロキシベンゼン、1,3-ジヒドロキシ-2-メチルベンゼン、4-クロロ-1,3-ジヒドロキシベンゼン、2,4-ジアミノ-1-(β-ヒドロキシエチルオキシ)ベンゼン、2-アミノ-4-(β-ヒドロキシエチルアミノ)-1-メトキシベンゼン、1,3-ジアミノベンゼン、1,3-ビス(2,4-ジアミノフェノキシ)プロパン、3-ウレイドアニリン、3-ウレイド-1-ジメチルアミノベンゼン、セサモール、1-β-ヒドロキシエチルアミノ-3,4-メチレンジオキシベンゼン、α-ナフトール、2-メチル-1-ナフトール、6-ヒドロキシインドール、4-ヒドロキシインドール、4-ヒドロキシ-N-メチルインドール、2-アミノ-3-ヒドロキシピリジン及び6-ヒドロキシベンゾモルホリン、及びその付加塩類から選択される。

【0024】これらのカップラーが存在する場合、それらは染色用組成物の全重量に対して好ましくは約0.0001~10重量%、さらに好ましくはこの重量に対して約0.005~5重量%である。

【0025】一般的に本発明の染色用組成物に使用可能な(酸化ベース及びカップラーの)酸付加塩類は、特に、塩酸塩類、臭化水素酸塩類、硫酸塩類、酒石酸塩類、乳酸塩類及び酢酸塩類から特に選択される。本発明の染色用組成物に使用可能な(酸化ベース及びカップラーの)塩基との付加塩類は、特に水酸化ナトリウム、水酸化カリウム、アンモニア水又はアミン類で得られたものである。

【0026】適切な染色用媒体(又は支持体)は、一般的に、水、又はC₁-C₄アルカノール類、グリセロール、グリコール及びグリコールエーテル類、芳香族アルコール、類似物及びそれらの混合物から選択される少なくとも1つの有機溶媒と水との混合物からなる。また、本発明の染色用組成物は、従来より毛髪の染色用組成物に使用されている種々のアジュバント類、例えば、アニオン性、カチオン性、非イオン性、両性又は双性の界面活性剤又はそれらの混合物、アニオン性、カチオン性、非イオン性、両性又は双性のポリマー類又はそれらの混合物、無機又は有機の増粘剤、酸化防止剤、浸透剤、金属イオン封鎖剤、香料、バッファー、分散剤、コンディショナー、例えばシリコン類、皮膜形成剤、防腐剤及び乳白剤を含有してもよい。言うまでもなく、当業者であれば、考慮される添加により本発明の酸化染色用組成

10

20

30

40

50

物に固有の有利な特性が悪影響を受けないように、また実質的に受けないように留意して、これら任意の付加的な化合物を選択するであろう。

【0027】本発明の染色用組成物は、種々の形態、例えば、液体、クリーム又はゲル、又はヒトの毛髪等のケラチン繊維を染色するのに適した任意の他の形態にすることができる。

【0028】また、本発明の主題は、上述した染色用組成物を使用する、ケラチン繊維、特に毛髪等のヒトのケラチン繊維の染色方法にある。この方法では、少なくとも1つの上述した染色用組成物を、空气中で、又は酸化剤を使用して所望の発色をさせるのに十分な時間繊維に適用するものである。染色用組成物は、酸化プロセスを促進させるために、ある種の酸化触媒を含有してもよい。

【0029】本発明の方法の第1の実施態様において、繊維の着色は酸化剤を添加せず、単に大気中の酸素と接触させることで行うことができる。

【0030】本発明の方法の第2の実施態様においては、上述した少なくとも1つの染色用組成物を繊維に適用し、染色用組成物の丁度使用時に添加される、又は、同時に又は続いて別個に適用される酸化組成物中に存在する酸化剤を使用して、酸性、中性又はアルカリ性のpHで発色させるものである。この本発明の染色方法の第2の実施態様では、染色に適した媒体中に、発色させるのに十分な量の少なくとも1つの酸化剤を含有せしめたる酸化組成物と、上述した染色用組成物とを使用時に混合する。ついで、得られた混合物をケラチン繊維に適用し、約3～50分、好ましくは約5～30分間放置した後、繊維をすすいで、シャンプーで洗髪し、再度すすいで乾燥させる。

【0031】上述した酸化組成物中に存在する酸化剤

共通の染色用支持体：

5-メチルピラゾロ[1,5- α]ピリミジン-

3,7-ジアミン

カップラー

ベンジルアルコール

ポリエチレングリコール8EO

エタノール

セピック社(SEPPIC)からオラミックス(Ora mix)CG110の名称で販売されている、

クエン酸アンモニウムで緩衝された、60

%の活性物質を含有する(C₈-C₁₀)アルキ

ルポリグルコシドの水溶液

20%のNH₃を含有するアンモニア水

メタ重亜硫酸ナトリウム

金属イオン封鎖剤

脱塩水

0.708 g

y g

2 g

3 g

18 g

5 g A.M.

10 g

0.205 g

適量

全体を100 gにする量

は、ケラチン繊維の酸化染色で従来から使用されている酸化剤から選択することができ、このようなものとしては、過酸化水素、過酸化尿素、アルカリ金属の臭素塩類、及び過酸塩類、例えば過ホウ酸塩及び過硫酸塩を挙げることができる。過酸化水素が特に好ましい。

【0032】上述した酸化剤を含有する酸化組成物のpHは、染色用組成物と混合した後に得られる、ケラチン繊維に適用される混合組成物のpHが、好ましくは約3～12、さらに好ましくは約5～11になるような値である。これは、ケラチン繊維の染色に通常使用される、上述したような、酸性化剤又は塩基性化剤により、所望の値に調節される。

【0033】また、上述した酸化組成物は、毛髪の染色用組成物に従来から使用されている、上述したような種々のアジュバントをさらに含有してもよい。

【0034】最終的にケラチン繊維に適用される組成物は、種々の形態、例えば、液体、クリーム、ゲルの形態、又はケラチン繊維、特にヒトの毛髪を染色するのに適した任意の他の形態にすることができる。

【0035】本発明の他の主題は、多区画染色具又は「キット」又は任意の他の多区画包装システムにあり、その第1の区画部は上述した染色用組成物を含み、第2の区画部は上述した酸化組成物を含む。これらの染色具は、毛髪に所望の混合物を塗布する手段を具備せしめたものであってよく、このようなものとしては、例えば、本出願人の仏国特許第2586913号に記載されているものを挙げることができる。

【0036】

【実施例】次の実施例は、本発明を例証するもので、本発明の範囲を限定するものではない。

実施例1ないし11(アルカリ性媒体における染色)

次の染色用処方物を調製した：

【表1】

アルカリ性pHでの染色		
実施例	5-メチルピラゾロ[1,5- α]ピリミジン-3,7-ジアミンと組合せたカップラー	処方物に導入された量(g%)-y値
実施例1	レゾルシノール	0.330
実施例2	メタ-アミノフェノール	0.327
実施例3	2-メチル-5-アミノフェノール	0.369
実施例4	2-メチルレゾルシノール	0.372
実施例5	6-ヒドロキシインドール	0.399
実施例6	2,4-ジアミノフェノキシエタノールジヒドロクロリド	0.723
実施例7	6-ヒドロキシベンゾモルホリン	0.453
実施例8	2-アミノ-3-ヒドロキシピリジン	0.330
実施例9	5-(N-メチル-3-ピリジル)メチル-1-メチル-4-ヒドロキシインドールクロリド	0.866
実施例10	3,6-ジメチル-1H-ピラゾロ[5,1-c]-[1,2,4]トリアゾール	0.408
実施例11	6-クロロ-2-メチル-5-アミノフェノール	0.582

【0037】使用時に、各染色用組成物1ないし11を、20容量の過酸化水素水(6重量%)と同量ずつ混合し、オルトリン酸でpHを約2.5に調節した。混合物を白髪を90%含有するパーマメントウエーブがかかった又はナチュラルなグレイの毛髪の実に30分間、毛髪30mgに対して300mgの割合で適用した。ついで毛髪をすすぎ、標準的なシャンプーで洗浄し、乾燥した。

【0038】毛髪の実は、次の表に示す色調に染色された：

【表2】

アルカリ性pHで得られた色調	
実施例1	帯銅マホガニー色
実施例2	帯銅マホガニー色
実施例3	帯赤銅色
実施例4	銅色
実施例5	帯金褐色
実施例6	紫色
実施例7	真珠光沢のある赤色
実施例8	真珠光沢のある紫色
実施例9	スマイレ色
実施例10	帯金銅色
実施例11	帯銅赤色

共通の染色用支持体：

5-メチルピラゾロ[1,5- α]ピリミジン-3,7-ジアミン

0.708 g

カップラー

y g

ベンジルアルコール

2 g

ポリエチレングリコール8EO

3 g

エタノール

18 g

セピック社からオラミックスCG110の名称で販売されている、クエン酸アンモニウムで緩衝された、60%の活性物質を含有する(C₈-C₁₀)アルキルポリグルコシドの水溶液

5 g A.M.

このように、5-メチルピラゾロ[1,5- α]ピリミジン-3,7-ジアミンにより、アルカリ性のpHにおいても幅広い範囲の色調を得ることができる。

【0039】実施例12ないし22(中性媒体における染色)

次の染色用処方物を調製した：

リン酸バッファー(1.5Mの K_2HPO_4 /
1Mの KH_2PO_4)
メタ重亜硫酸ナトリウム
金属イオン封鎖剤
脱塩水

10 g

0.205 g

適量

全体を100 gにする量

【表3】

pH=7での染色		
実施例	5-メチルピラゾロ[1,5- α]ピリミジン-3,7-ジアミンと組合せたカップラー	処方物に導入された量(g%)-y値
実施例12	レゾルシノール	0.330
実施例13	メタ-アミノフェノール	0.327
実施例14	2-メチル-5-アミノフェノール	0.369
実施例15	2-メチルレゾルシノール	0.372
実施例16	6-ヒドロキシインドール	0.399
実施例17	2,4-ジアミノフェノキシエタノールジヒドロクロリド	0.723
実施例18	6-ヒドロキシベンゾモルホリン	0.453
実施例19	2-アミノ-3-ヒドロキシピリジン	0.330
実施例20	5-(N-メチル-3-ピリジル)メチル-1-メチル-4-ヒドロキシインドールクロリド	0.866
実施例21	3,6-ジメチル-1H-ピラゾロ[5,1-c]-[1,2,4]トリアゾール	0.408
実施例22	6-クロロ-2-メチル-5-アミノフェノール	0.582

【0040】使用時に、各染色用組成物12ないし22を、20容量の過酸化水素水(6重量%)と同量ずつ混合し、オルトリン酸でpHを約2.5に調節した。混合物を白髪を90%含有するパーマントウエーブがかかった又はナチュラルなグレイの毛髪の本に30分間、毛髪30mgに対して300mgの割合で適用した。ついで毛髪をすすぎ、標準的なシャンプーで洗浄し、乾燥した。

30

このように、5-メチルピラゾロ[1,5- α]ピリミジン-3,7-ジアミンにより、中性のpHにおいても幅広い範囲の色調を得ることができる。

【0041】毛髪の本は、次の表に示す色調に染色された：

【表4】

pH=7で得られた色調	
実施例12	帯銅マホガニー色
実施例13	帯銅マホガニー色
実施例14	帯赤銅色
実施例15	真珠光沢のある銅色
実施例16	チェスナット色
実施例17	紫色
実施例18	真珠光沢のある赤色
実施例19	真珠光沢のある灰色
実施例20	スミレ色
実施例21	帯金銅色
実施例22	帯銅赤色

フロントページの続き

F ターム(参考) 3B154 AA03 AB04 BA07 BB31 BD01
BE04 BF12 BF25
4C083 AB011 AB031 AB05 AB051
AB08 AB081 AB28 AB35
AB411 AC10 AC101 AC111
AC121 AC15 AC151 AC171
AC271 AC301 AC471 AC521
AC551 AC85 AC851 AD04
AD11 CC36 EE26
4H057 AA01 AA02 BA01 BA09 CA07
CB22 CB34 CB45 CB46 CB53
CB60 CB61 CC02 DA01 DA21